

弘前市文化芸術振興計画策定に係る意見交換会 意見集

1. 開催日 令和2年10月7日（水）、12日（月）、13日（火）
2. 参加団体 社会教育協議会、市民文化祭加盟団体、文化施設指定管理者等 38 団体
（うち 27 団体出席）

3. 計画策定についての説明

（1）文化振興課長より

文化都市弘前において、市民の皆様は多種多様の文化芸術活動を活発に行っておりませんが、一方で各文化芸術団体では会員の減少や高齢化、後継者不足等さまざまな課題を抱えておられると思います。

また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で思うような活動ができない日々が続いており、今後の活動の在り方を見直している団体もあるかと思います。

こうした状況の中で、今後も市民の皆様の主体的な文化芸術活動を支え、地域共生社会の実現を推進するために、弘前市では文化芸術振興計画を策定することとなりました。

日頃から文化芸術活動に取り組む団体の皆様に広く意見をお伺いし、5年後、10年後、将来的に弘前市の文化芸術活動を維持発展できるよう取り組んでまいります。

（2）弘前市文化芸術振興計画の策定について

→事前にお送りした同名資料をご参照ください。

4. 意見一覧

（1）計画策定の説明に関する質問等について

- ・計画の内容はこれから審議会を立ち上げて決めていくという認識でよいか。

→【文化振興課回答】その通りです。

- ・事前配布資料中の「文化芸術の定義」の箇所に記載された文化芸術のみを今回の計画の対象とするのか。それとも記載のないものについても網羅していくのか。

→【文化振興課回答】資料に記載したものは文化芸術の一例の列挙です。文化芸術の定義については幅広く捉えて、計画策定を進めていきます。

- ・配付資料のポイントがバラバラで、現状行われていることについて話したいのか、これから育てていきたいことについて話したいのか、ストーリーが見えてこない。文化芸術の分野の定義も私の感覚と異なる。

なぜ資料作成の段階で社会教育協議会を交えていないのか。今後資料などを提示する際には文化芸術のスペシャリストを交えて現状を把握した資料を提示してほしい。

- ・配布資料のポイントが現状バラバラなのは、審議会に諮るための計画の土台作りをこれから行うからであり、その作成のために今回の意見交換会を開いたという認識でよい。

→【文化振興課回答】今回ご案内した38団体からいただいた意見に加えて、もっと広く市民に対するアンケートの実施結果に基づき、計画素案を作成していきます。計画素案はゼロから作り上げていき、3月くらいを目途に審議会に諮る予定です。また、審議会の審議を経た計画案については広く市民から意見をもらうパブリックコメントを実施し、いただいた意見を反映させて令和3年9月頃に公表する予定です。

- ・今回の意見交換会に案内した団体は芸術団体が多いが、文化芸術振興計画は文化の中の芸術部門についての計画を立てるのか、もっと幅広い文化全体についての計画を立てるのかを確認したい。

→【文化振興課回答】幅広い文化全体についての計画にしたいと考えています。

- ・今回の計画は総合計画を基礎として策定すると思うが、総合計画では文化芸術をどのように謳っているかを教えてほしい。

→【文化振興課回答】市の最上位計画である総合計画は、基本計画と実施計画に分かれて整理されており、総合計画の中では計画的に実施する計画事業が定められています。

今回の計画の策定は、国の法に基づく計画のなかで自治体が努力して策定するという項目があるとともに、今後の弘前市の文化芸術のために計画的・体系的に整理した計画に基づき振興するよう、総合計画の中で策定を求めています。かなり広範な計画になってはおりますが、基本的には総合計画の考え方に基づいて策定してまいります。

- ・計画策定に際して学校教育に関する課題なども出てくると思うが、教育委員会との連携はどのように行うのか。

→【文化振興課回答】策定に際しては市役所内の関係課と連携することとしており、実際に先般関係課での検討会議を開催しました。その中で教育委員会もメンバーに入っており、今回の意見交換会で出た意見も情報共有して、様々な課と連携しながら、将来の市の文化芸術振興に取り組んでまいります。

例 学校指導課：学校の授業の中で文化芸術の普及を一緒に取り組めるような仕組みづくりなど

生涯学習課：大人子どもに関わらず学校以外の社会教育の場での文化芸術の取り組みなど

文化財課：文化財の周知や活用など

- ・関係課との検討会議ではどのような課題が出たのか。

→【文化振興課回答】検討会議の中では、関係課がそれぞれ策定している計画の中に

文化芸術について触れられているものがあるので、それぞれと整合性を取りながら計画を策定してまいります。

前回の検討会議の間では各課から課題の抽出までは至らなかったのですが、今回の意見交換会などで皆様からいただいた課題の解決に向けて連携を図りながら計画を策定してまいります。

- ・計画策定後は従来通り各部署で業務を分担して取り組むのか、もしくは特定の部署で横断的に担っていくのか。

→【文化振興課回答】計画策定後は各部署で業務を分担して取り組み、文化振興課では計画全体の進行管理を行います。

また、前後期5年ずつの中長期の計画となるため、進行管理を毎年行うほか、5年ごとに状況に合わせた計画の修正を行います。

皆様から頂いたご意見は、教育委員会など各業務を担う関係課とも連携して取り組み、計画に反映していきたいと考えています。

(2) 計画に取り入れてほしい観点、要素等

<高齢化>

- ・とても高齢化が進んでおり、会員数も少なくなっている。
- ・若い人が入ってこない。一度若い方に活動を見てもらい、このような団体もあるんだと認識してもらいたい。
- ・団体の高齢化は否めない。市民文化祭参加団体で事務局が若返ったところは1つもない。市民文化祭実行委員会事務局で各団体の事務局機能を担っていないとイベント開催ができない状況になっている。
- ・子どもたちが経験する場が少なくなること、各団体の高齢化につながっているのだと思う。子どもたちがステージを踏む回数を増やせる場を増やしてほしい。

<後継者不足>

- ・弘前市の人口が10年後には2万人減の15万人になるとの予測が出ており、弘前の文化芸術については、人口減少や担い手不足の課題がついて回ると思う。
- ・後継者の育成も計画に取り立ててほしい。
- ・人材育成が重要な課題だと認識している。
- ・後継者もおらず、自分で演奏を教える活動をこれ以上続けていくのも限界かなと感じている。
- ・市からの助成をいただきながら後継者の育成を行っているが、小中学校が減少している中で後継者を育成するのは簡単ではない。
- ・どうすれば若い人たちが入るか各団体とも苦労している。それぞれが意志をもって団体を引継ぎ活動に取り組んでいるので、今後も団体を存続させていきたい。

- ・小学校に何度も教えに行ったが、アンケートでは中学・高校で続けたいという子がいっても、進学と共に部活に時間を奪われ、教える先生もいないので取り組むチャンスがない。ダンスなど最近の流行りに興味を奪われていく。
- ・子どもたちを後継者として育てたい気持ちはあるが、そのためにどのような行動をすればよいかわからない。市と団体で一緒に取り組んでいければいいと思う。
- ・後継者不足という現状を踏まえながら、子どもたちに後継者となってもらえるような取組みを行政と文化芸術団体がいっしょに考えて、計画策定後も団体の活動をサポートしてほしい。
- ・若い世代を取り込むための仕組みづくりや技術のサポートなどの中間支援を行政で考えてほしい。各団体で考えるのは難しいと思う。
- ・後継者不足という課題もあるが、各団体の事務局で行うのは活動の負担になるので、将来的に各団体を支援する窓口を弘前に作る取組みをしてほしい。
- ・後継者を育てるために、まんじ学や歴史を学ぶ講座などの場で子どもたちが文化芸術に興味を持つような取組みを盛り込んでほしい。
- ・鑑賞者を育てる取組みや鑑賞者からプレイヤーにつなげる取組みが重要となるのではないか。実際に文化芸術との出会いで将来の仕事につながった事例も身近にあった。

<文化芸術活動の意義>

- ・2017年に弘前市で行われた子育てアンケートでは、保護者が学校教育に期待することとして、『豊かな心を育成する教育』が最も多い64%を占めている。文化芸術団体が行ってきたことはまさに子どもたちの豊かな心を育成してきた教育事業であり、学校教育ではできないところをフォローしている。
- ・市には文化的なものに触れることに価値を感じる市民を増やしていく流れを作してほしい。

<数値目標の設定>

- ・前後期5年ずつの計画ということだが、計画の目標は抽象的なものだけでなく定期的に外部で達成度を審査してもらうための数値目標を設けてほしい。
- ・計画では何らかの数値目標を設定すると思うが、その際は実際の来場者数だけでなく、例えばYoutubeでの観覧者数など新しい数値も取り入れていく必要があると思う。
- ・数値目標については、活動人口の比率で見ると数値の取り方を考えて設定してほしい。
- ・文化芸術活動は教育や観光、中心市街地活性化など様々な面にも寄与しているので、来場者数など直接的な数値ではなく複合的な目線での数値化を検討してほしい。

<団体同士の活動連携>

- ・異なる分野の団体とのコラボをマッチングする枠組み作りや、新しい取り組みへの支援などを行政で用意してもよいのではないか。

<インターネット、SNS等の活用>

- ・今年度予定していた事業がコロナ禍の影響で見直しが迫られ、事業のほとんどをオンライン化して実施した。その結果、弘前に来たことのない方々や弘前に住む若年層からの反響があった。

もちろん会場に集まれるイベントを行えるのが一番ではあるが、情報化社会の発展により今まで弘前に来られなかった人たち、文化に興味のなかった人たちにも届きやすい時代になったのかなと思う。

- ・直接イベントに参加するというスタイルもコロナ禍以降変わってくるのではないかという認識だ。弘前れんが倉庫美術館でも直接見に来られない方向けにオンラインプログラムや展覧会を3Dで鑑賞できるアーカイブなどを実施している。

オンラインで見ると美術館に足を運ばなくても満足してしまうのではないかという懸念を持つ方もいるが、実際はオンラインで見ることでより直接見たくなる、より実際に体験したくなるといった調査・研究の報告書もあるので、オンラインプログラムを充実させていくことが一つの手立てではないかと思う。

- ・市の文化施設にインターネット回線が整っていないため、回線整備とオンライン機器使用のノウハウの提供について早めに取り組んでほしい。
- ・YoutubeやSNS等に弘前市の文化芸術を発信する市独自のアカウントを持ってほしい。
- ・オンラインイベントは必ずしも閲覧につながらないし本格的にやろうとすると大変だ。文化施設にインターネット回線を整備したところで、団体によってオンライン機材やノウハウに差があり、オンラインイベントができるところとできないところが出てきてしまう。
- ・オンラインイベントになるとチケット収入が減る一方で費用はある程度かかるため、イベントを開催しない判断をする団体も多いと思う。ただ、せっかく毎年続けてきたイベントをコロナのせいでやめてしまうと文化芸術の発展が遅れてしまう。
- ・少しでも若い方が加入してくれるようオンラインの活用に取り組んでもいいと思う。ただ、初めてオンライン機器を使う人たちがそれを理解できるまで時間がかかるし使い方を学ぶ機会もないので、オンライン機器の使い方などの情報を共有できる場所があればいいと思う。
- ・弘前で社会福祉施設向けのzoom講習会を行っている団体がある。中間支援について民間も含めた文化芸術分野以外の分野から協力してもらうのも一つの方策で

はないかと思う。

<活動告知・PR>

- ・会員数が少ないため観客の動員数も落ち込んでいる。ここ1～2年は会員でポスターを手作りしている状況で、自分たちだけでは活動の告知が難しい。
- ・各団体は地元の各流派の協力でいろいろやっているが、コロナ禍でイベントが1つもできない状況になると、若い人たちにPRする場がなくなってしまう。これを克服する方法は自分たちだけでは思いつかない。
- ・市民会館や弘前文化センター以外の人目が集まる施設の掲示板に演奏会のポスターを貼らせてほしい。または人目が集まる場所に新たに掲示板を作ってほしい。
- ・子どもたちへの周知も大事だが、まずは各団体や教員などが市で行われる活動の情報を知ることが大事だと思う。例えば市の観光情報をツイッターで発信したりアップルウェブの番組で様々なイベント案内をしているように、市内の文化芸術活動を行政や民間企業から発信していく仕組みを作れないか。
- ・その道で有名な方を弘前にお呼びする企画をしたいと常々思っている。個人の団体でホールを満席にするほどの宣伝を行うのは難しいので、有名人をお呼びしたときなどは行政や民間企業の力で告知を行ってほしい。

<活動場所の確保>

- ・練習場所を確保してほしい。
- ・公共施設以外の施設の情報を提供してほしい。
- ・施設の閉鎖などで活動の場所がなくなってきている。市民文化交流館での活動も検討しているが、子どもの声がうるさくて句会を開く雰囲気ではない。句会を開く場所の情報を教えてほしい。
- ・練習や活動の場所は奪い合いの傾向があり、各団体とも非常に苦心している。高齢化も考えると冷暖房が揃った場所の確保を考えてほしい。
- ・公民館施設やスポーツ施設など文化施設以外の施設を利用しようとすると、優先順位が厳しく予約を入れる余地がなかった。この垣根の調整を計画に盛り込んでほしい。
- ・学校合併等に伴い、まだ使えるような楽器などが空くことがあったり、学校の施設設備の質も上がっていくと思うので、学校や設備等が文化芸術団体でも活用できるように検討してほしい。

<活動記録・機材保管>

- ・5年後10年後を見据えて、文化芸術活動の記録や団体が保有する楽器などを市で一括して保存する場所の確保をしてほしい。
- ・楽器や楽譜の保管場所を借り上げているが、他の音楽団体も含めて団体所有の楽器の

保管に財政的な負担がかかっている。公の場所を保管場所として使用させてほしい。

<学校教育での文化芸術振興>

- ・10 年ほど前までは文化芸術を高校の授業で学ぶ機会があったが、指導要領の変更などで近年そのような機会がなくなってしまったため、裾野が育たなくなってしまった。学校教育での学びの場が衰退してしまったことで、食文化や日本の生活文化の衰退につながってしまうのではないか。
- ・学校や部活の中に活動を取り入れるのが一番広めやすい手段だと思うが、なかなか実現しない。
- ・部活動だと部に入らない人は参加しないので、部活動ではなく小中高校の授業の一環として文化芸術を取り入れてほしい。
- ・先日テレビでN響の特集があり、子どもたちにわかりやすい「動物の謝肉祭」などを物語の解説付きで流していたのを見て、このような番組などを学校などで流したり市民会館などに学校を招待して見せたら子どもたちはどんなに感動するだろうかと感じた。
- ・文化芸術への学校の先生の理解が必要だ。
- ・学業がすべての風潮が強い。県内三大都市以外だとより顕著になる。親の学業優先により日本の伝統文化のすばらしさを理解していないのではないか。
- ・学校教育との折衝の場の確保や公平な意見交換の機会を具体的な形で進めてほしい。
- ・学校の内申点に文化芸術活動への取組みの評価を加えてくれると活動する子どもが増えるのではないか。

<地域での文化芸術振興>

- ・5～10 年前までだと小中高校の活動の中で音楽に親しむ人、経験している人が生まれ、社会人になっても地域で音楽活動を続けるという流れがあった。
人口は今後先細りになり、学校単位での部活が成立しにくくなってきているので、大きな学区単位で音楽活動に地域の大人が関わり、音楽に関心を持つ子どもたちを増やす取り組みが必要だと思う。

<伝統文化の保存・継承>

- ・弘前には伝統的な文化も複数あるので、それらを絶やさないような取組みを盛り込んでほしい。

<環境の変化による問題>

- ・学校側では部活動を廃止したい方向で動いている。子どもたちから伝統芸能などをやりたいという声が上がれば活動が長続きするが、中学校からは部活動やクラブチー

ム、勉強などが忙しく、ねぷたなどでも子どもたちの参加は少ない。

- ・昔は花嫁修業の1つとしてお茶やお花を家庭内や近所の先生から教わるものだったが、核家族化などの影響でそのような機会も失われている。

<金銭的課題>

- ・公演の開催経費が多くかかるため、子どもたちが公演に出演することが難しい。
- ・市の公共施設だけでなく、大学や偕行社、スペースアストロなどの施設の使用に際して助成を出してほしい。
- ・施設利用者への駐車料金の減額措置を講じてほしい。
- ・今後ますます施設利用者を増やすため、状況に応じた施設使用料の減額措置を講じてほしい。
- ・今まで長く使用している楽器が入れ替え時期に来ているため、購入費用を何とかしないといけない。
- ・市から映画に対して未だに助成がなされていない。中三のスペースアストロを有料で借りて harappa 映画館を開催しているが、賃料の負担が大きく、市の1%事業の補助を得てなんとか黒字にしているが、補助金のほとんどは賃料や上映設備の借り上げ費にかかっている。それでも映画が好きな人々のために我々は上映を続けようと思い、地域に根差した映画や通常の映画館では上映されない映画を上映している。市には事業に対する助成や施設使用料の減免を考えてほしい。映画の街ひろさきを取り戻してほしい。
- ・楽器の演奏技術の継承も大きな仕事だが、それも金銭的、人的課題が付きまとう。お金をかければ人を集めることはできるが、保護者にお願いする負担額が年々増えてきており、そろそろ限界が近づいている。
- ・子どもたちが活動の経験を通して、文化芸術活動の担い手としての自覚の芽生えや文化芸術活動をする喜びを得ることで、将来にわたって活動を続ける原動力となることにつながるが、その活動の場所を提供や確保にも費用が発生するため、それが活動のネックとなっている。
- ・周辺校だと市民会館に来るバス代が相当かかる。例えば市議会のバスの貸し出しなどは、文化芸術活動に係るイベントでは一度もなかった。そのようなバックアップ体制の存在が大きいのかと思う。
- ・中学校の場合、運動部については大会遠征費の他に、チームの維持や選手育成のための育成費に対して助成金が交付されている。しかし、文化部には育成費や物品購入に対する助成などは全くない。運動部と文化部の格差を是正してほしい。
- ・運動部は学校指導課から助成がでており、文化部は生涯学習課が担当している。ここも同じ部活動に関する業務として足並みが揃っていない原因なのではないか。
- ・助成額が非常に少ない。去年は20万円かかる遠征費に対して1万5千円しかいただ

けなかった。他は出場者3人の保護者が折半しなければならず、大会参加をあきらめることにつながってしまう。

- ・子どもたちにステージ上の雰囲気や音響の良さを味わってもらうため市民会館を使用して学校の合唱コンクールなどを行いたい、使用料が高い。減免措置もなく各学校で非常に多くの費用を負担している。広い音楽教育の観点から多くの子どもたちに経験の場を与えたいので、計画策定の中での減免措置などを考えてほしい。

<施設運営>

- ・いろいろな団体の意見を聞いて、市民が使いやすい運営の仕方を考えてほしい。行政と団体お互いに知恵を出し合う場を設定してほしい。
- ・公共性がある事業などをする際にも、連日使用のイベントでも施設の事前予約で1日ずつ抽選を受けなければならない。1日取れない日があると残りの日に日程を集中しなければならず、子どもたちが夜7時以降に帰るようなスケジュールになり、子どもの健全育成として正しいのかと思ってしまう。事前予約の仕組みを考え直してほしい。
- ・各公共施設の中で文化庁から映画上映施設に指定されている施設もあり、弘前では弘前文化センターが上映施設として指定されているが、現状で弘前文化センターは映画上映施設として機能していない。
- ・日本全国にたくさんの文化施設があり、非常に素晴らしい取り組みをしている施設や自治体があるので、そのような事例を集めて使い勝手などを改善して欲しい。

(3) 文化芸術の継承、発展及び創造に向けた各主体(※)の役割について

※文化芸術団体、文化施設、企業等の民間事業者、大学、小、中、高等学校など

<文化芸術団体>

- ・子どもたち向けにいい演奏を披露する場面を多く作っていききたい。
- ・色々な文化芸術の方を我々PTAが子どもたちに紹介するイベントを組むのも我々の仕事ではないかと思うので、今後取り組んでいきたい。

<団体同士の活動連携>

- ・自分たちと異なる分野の方々といっしょにイベント等を行うことで、日頃文化芸術に興味の薄い人々が文化芸術に触れる機会を弘前で作っていったらいいと思う。
- ・子どもたちへの教育や働きかけに文化芸術団体を教育現場でうまく利用してほしい。
- ・今の小中学校では美術や音楽の時間が少なくなっている。弘前には美術少年少女団のようなものがないので、小中学生を対象として「こども harappa 美術の時間」で様々なワークショップを開いている。それと併せて「粘土で作ろう」というイベントを行っているが、すぐ定員が埋まるくらい子どもに大人気で、子どもたちは美術に対する

興味を持っている。教育委員会や NPO が連携して、れんが倉庫美術館などを活用して子どもたちが美術に興味を持つプログラムを開催していけばいいと思う。

(4) その他、現状の文化芸術振興に関する要望等

- ・各文化施設の使用申請方法や使用規則などを統一できないか。

→【文化振興課回答】文化芸術活動が行いやすくなるように、利便性の向上について引き続き検討してまいります。

- ・毎年市民会館で演奏会を開催しているが、駐車場をもっと広くしてほしい。
- ・市民会館のホール使用料について、直営化前は後片付けに使用時間を 10～15 分オーバーしただけで次の使用時間帯の料金を満額取られていた。今は 1 時間単位の料金加算に改善されたと聞いたので、これからもそのような料金の考え方で行ってほしい。
- ・直営化前は市民会館の楽屋で音を立ててはいけないといわれた。そんなことを言われると音楽団体は何も活動できない。ホールが人を育てるといわれる中で、ホールが使いづらいのは使用者を委縮させ、だんだん活動の意欲がなくなってくる。
- ・このコロナ禍において当団体も子どもたちの安全安心を常に考えているが、教育委員会と関係課との足並みをもう少し揃えて意思疎通を図ってほしい。
- ・以前、市が企画した事業に絡んだ演奏依頼があり、当団体も全面的に協力し連盟を挙げて取り組んだが、いつの間にかその事業が立ち消えになってしまった。真面目に取り組んだ子どもたちが翻弄されることのないように、一度動き出した文化芸術の動きを中断することのないようにしてほしい。

以 上